

目次／テーマ展 祈りにみる動物たち 表紙／被災文化財再生をテーマとする2つの展覧会 『明日につなぐ気仙のたからものー津波で被災した陸前高田資料を中心にー』と『未来への約束ーいま語りはじめた気仙のたからものー』をふりかえってp.2-3／展覧会案内 テーマ展「祈りにみる動物たち」 p.4-5／事業報告 ゴールデンウィークスペシャルイベント 活動レポート 古文書入門講座p.6／事業報告 県博バックヤードツアーp.7／インフォメーションp.8

テーマ展

## 祈りにみる動物たち

2018年9月22日(土)～11月25日(日)



### 「猫図絵馬」と「猫の木像」 (猫図絵馬〔館蔵〕／猫木像〔陸前高田市・猫淵神社蔵〕)

かつて県内で養蚕が盛んだった頃、県南地方を中心に養蚕祈願のため、猫の絵馬を描いて神社に奉納する習俗がありました。大事な商品となる繭を食いあらず鼠を駆除するため、家で飼われていた猫に願を掛け絵馬に描いたといひます。

本テーマ展では、県内を中心に「馬・猿・牛・狐・狼・猫」といった動物にまつわる信仰を紹介し、私たちが動物にどのような祈りや願いを託してきたのかをご紹介します。

## ■被災文化財再生をテーマとする2つの展覧会

## 『明日につなぐ気仙のたからもの—津波で被災した陸前高田資料を中心に—』と『未来への約束—いま語りはじめた気仙のたからもの—』をふりかえって

## ■連綿と続く被災資料の再生

岩手県立博物館は2011（平成23）年4月2日から、東北地方太平洋沖地震に伴う大津波で被災した文化財、自然史標本、関連資料の救出と再生に取り組んできました。岩手県太平洋沿岸部から救出された被災資料は概ね50万点に上り、平成30年3月末までに22万点余りの資料について安定化処理を終えることができました。岩手県太平洋沿岸部の中でもとりわけ深刻な被害を受けた陸前高田市の資料が、9割近くを占めます。

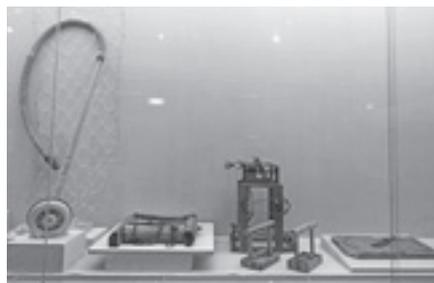
津波で被災した資料の再生は、わが国はもとより国際的にも未経験で、処理する資料の材質や形態も多様です。そこで全国の専門機関と連携し試行錯誤を重ねながら、資料の状態に応じた処理方法の構築を図ってきました。平成26年5月には、「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への備え」、「被災した博物館の復興支援」を主な活動目的に掲げ、「津波で被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」（以下、プロジェクト実行委員会）が結成されました。岩手県立博物館を中核館、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、NPO-JCP、公益財団法人日本博物館協会を主な構成機関とし、文化庁の助成を受けながら、様々な活動を行ってきました。

その一つに、確立された安定化処理技術の普及をテーマとする展覧会の開催があります。平成30年3月3日～3月28日に開催した『明日につなぐ気仙のたからもの—津波で被災した陸前高田資料を中心に—』（前期展覧会）、4月3日～5月6日に開催した『未来への約束—いま語りはじめた気仙のたからもの—』（後期展覧会）は共に、プロジェクト実行委員会との連携によるものです。

## ■開催した展覧会の概要

2つの展覧会では最初に、岩手県指定文化財『吉田家文書』とその安定化処理方法を取り上げました。吉田家文書は最初に救出された資料で、この資料に対し構築された安定化処理方法をベースに、他の紙を素材とする資料、民具に対する処理手順が構築され、実践されました。

当初、安定化処理作業は順調に進みましたが、処理終了後4年余りが経過した古文書や書籍類、海苔ごも等の植物繊維を素材とする資料の中に、異臭の発生や変色の発生が確認され、新たな課題が生じました。東京文化財研究所と連携し調査した結果、資料に残留する魚類のたんぱく質や脂質が微生物で分解され、有機酸が発生することに起因する現象の可能性が高いことが判明しました。そこで、医療用の中性洗剤で洗浄するという工程を新たに加えました。展示ではその点について解説しました。



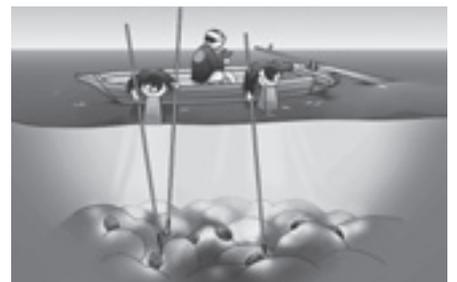
海苔養殖の道具類（登録有形民俗文化財）

岐阜県出身の画家・蓑虫山人は明治期に気仙地方を訪れ、広田湾の風景等を絵に残しました。展覧会ではその一部と、日本百景に選定された高田松原の震災前後の写真を紹介しました。併せて、震災前の高田松原およびその周辺の植生の状況を、再生された植物標本を用い解説しました。広田湾には、気仙川から豊かな森林を源とする水量豊富な水が注ぎ込まれます。海岸には汽水域やアマモ場、海藻の森、砂浜、岩礁など様々な環境が形

成され、多くの生物を育んでいます。

このような恵まれた自然を背景に、広田湾周辺の人々は、縄文時代から今日に至るまで様々な漁撈用具を使い、漁を営んできました。前期展覧会では処理が完了したアワビ漁、サケ漁、ノリ養殖、後期ではイカ漁、タコ漁、なまこや昆布、わかめ等の採取に使用された用具類を展示し、漁の様子を紹介しました。他地域の漁撈用具や文献資料等との比較を通し、近世以降、気仙地方には全国の様々な地域から、ある特定の魚種や海藻を獲得するための漁法や養殖技術が伝えられ、時代のニーズに応じ変化を重ねながら、今日に伝えられてきた様子を見てとれます。

また、難解な漁撈用具の使用方法が児童にも容易に理解されるよう、女子美術大学の協力を得てイラスト画を作成し、実物資料と共にパネル展示しました。今後もイラスト画を併用し、文化財が携えてきた未来へのメッセージを分かりやすく伝えていきたいと考えています。



アワビ漁のイラスト画（女子美術大学提供）

再生された資料の中には、染織資料が含まれています。そのほとんどに変色や腐朽による欠失がみられ、繊維も脆弱化していました。このような資料は、アクリル板に挟んで形状保持が図られてきましたが、女子美術大学によって立体復元が試みられました。展覧会ではこのようにして復元された看袷（カンバン）や高田歌舞伎装束などが展示され、染織資料の新たな措置法として注目されました。



立体復元された看袴（登録有形民俗文化財）

救出された資料の中には多量の水を使って洗浄することが困難なものが多数存在します。アクリル画もその一つで、カンバスの裏面を少量の水で湿らせた後、吸水シートを使って残留する塩分等を除去するという安定化処理法が、東京国立博物館によって構築されました。水彩画については、多糖類の硬質ゲル材料を素材とするシートで資料を挟み塩分等を取り除く方法が、NPO-JCP会員の手で実践されました。展覧会では、その解説と共に再生された資料を展示しました。なお、処理後の蛍光X線分析で、いずれの方法でも相当量の塩分が取り除かれていることが確認されました。

### ■音の再生に成功したリードオルガン

形態に加え音の再生に成功した資料にリードオルガンがあります。19世紀初頭に三省堂機械標本部が海保社に依頼し製作した、国内に現存する3台の内の1台です。救出後、東京国立博物館および日本リードオルガン協会の支援により、3年余りの歳月をかけて再生され、陸前高田市コミュニティホール、東京国立博物館、名古屋市立博物館、新潟県立歴史博物館で演奏会が行われました。

岩手県立博物館でも平成30年1月8日、3月3日・11日、4月29日の4回にわたり演奏会が開催されました。前期展

覧会開幕日の3月3日には、ピアニストの中村由利子氏、歌手の白鳥英美子氏、ヴァイオリニストの伊禮しおり氏をお招きし、講堂で150名を超える来場者を前に、虹と雪のバラードなど13曲を演奏していただきました。最後に白鳥英美子氏のリードで、会場全員がふるさとを合唱し、被災地の復興に想いをよせました。



リードオルガン演奏会の様子

### ■漫画関係資料

陸前高田市立博物館の収蔵資料の中に、漫画コレクションがあります。将来、漫画が江戸時代の浮世絵の役割を担うという思いのもと、津波で亡くなられた学芸員が創刊号から収集した資料です。漫画は今や日本を代表する文化として、国際的にも高い評価を得ています。漫画を通じ、年齢や世代、国籍に関係なく多くの人々と共通の話題を共有できると共に、過去に生きた人々が未来に抱いた夢を容易に知ることができる等、重要な役割を担っています。

救出された資料はいずれも脆弱な洋紙で構成されていたため、一枚ごとに中性洗剤による洗浄と水への浸漬を繰り返し、再生されました。後期展覧会では10冊を展示しました。

女子美術大学を通じ、被災した漫画資料の再生が行われていることをご存知になった漫画家・同大客員教授の萩尾望都先生が4月22日に来館され、当該資料の再生の状況を見学されました。翌日は「ポーの一族の世界－漫画の魅力－」と題し、過去と未来をつなぐ重要な媒体と

いえる漫画の魅力についてお話いただきました。会場には全国から180名を超える方々が来場し、熱心に聴講されました。



再生された被災紙資料を見学される萩尾望都先生（右端）

### ■広域的情報発信

連綿と続く被災文化財再生と博物館復興への支援を目的とするシンポジウムが、これまで被災資料の再生に従事してきた研究者をお招きして、3月11日、当館講堂で開催されました。シンポジウムの後半では、ギューリック3世ご夫妻（米国メリーランド大学教授）と宮川治代氏（前米国バーミングハム公立図書館文化・観光部長）による特別講演が行われました。お二人の講師は、友情人形と答礼人形が日米交流に果たしてきた役割を説明され、併せて戦争と震災という2度にわたる危機を乗り越えた、被災地に伝わる友情人形が今後、海を越えた新たな絆形成に大きな役割を果たすことを、期待を込めて述べられました。

再生された資料については様々な機関が連携し、広域的視野に立った学術情報の復元を進めています。今回の展覧会および関連事業の成果を基に、未だ救出されたままの状態と保管されている資料に対する安定化処理方法の構築と、資料が携えてきた未来へのメッセージの復元を進め、被災地の重要な課題である交流人口の増大にも貢献したいと考えています。読者の皆様におかれましては引き続き、温かい御支援の程お願い申し上げます。

（上席専門学芸員 赤沼 英男）

## ■展覧会案内

## テーマ展「祈りにみる動物たち」

会期 平成30年9月22日(土)～11月25日(日) 会場 特別展示室

動物をめぐる社会問題に目をむけると、生態系の破壊といった環境問題、鳥インフルエンザやBSEなど家畜の疫病に関する問題、鹿や猪、熊といった害獣駆除の問題、ペットの殺処分問題など、実に多様で複雑な様相を呈しています。

その反面、現代人にとって日常的に触れ合うことの多い動物といえばペットであり、人と動物との多面的な関わり合いは少なくなりました。

古代より私たちは、動物に特別な力(霊力)を見出し、これにあやかろうとしたり、動物の行動から物事の吉凶を感じ取ったりしました。先人たちは、野生動物に対し、親近感や恐怖心、畏怖・畏敬の念を抱いて過ごしてきました。人と動物との関係は、精神面で現代よりもより深い意味をもつものでした。

今回のテーマ展では、これら動物にまつわる多彩な資料を展示いたします。資料をとおして、先人たちが抱いてきた動物観や人間と動物との絆を見つめ直してみたいと思います。

## 第1章 暮らしのなかの動物たち

## ～飼う・治す・獲る・愛でる～

この章ではかつて私たちの暮らしに最も身近な存在で家族同様に扱われてきた馬や牛といった家畜にまつわる資料や治療薬としての動物の役割、狩猟や愛でる対象としての動物と人間との関係について紹介します。



亀甲花菱紋鶴高時絵鞆・鈴(江戸時代 館蔵)  
瑞鳥である鶴と亀甲紋で構成されています。

## 第2章 動物をめぐる俗信と伝承

## ～まじなう・化ける～

人々は自分の願いを叶えるために、また物事がうまく運ぶようにと神や仏に祈るとともに、そのことにふさわしい能力や名前をもつ動物に願いを託しました。野生動物がもつ生命力や神秘性には、魔を寄せつけない特別な力を見いだしました。動物の内臓などを薬として利用し、角や牙など身体の一部を使ったり、動物の絵や文字を描いた呪符・護符を作ったりして邪気を払おうとしました。

また、人間に化けて悪事をはたらく動物や異常な霊力をもって祟る動物については、多くの不思議な物語が生み出され、まことしやかに、表現豊かに語り継がれてきました。

動物をめぐる俗信と伝承は、今となっては迷信として扱われることがほとんどです。第2章では、現代社会においては科学的でないかと否定されてしまった動物たちの怪異的な側面を紹介し、なぜこれらが生み出されたのかを読み解きます。



## 数珠(館蔵)

宗教者が用いる数珠の一種で、一般にイラタカ(口寄せ巫女など)念珠と呼ばれます。動物の上顎や角や骨、爪、貝殻、古銭などが付属します。

## 第3章 神の使いとなった動物たち

## ～馬・猿・牛・狐・狼・猫～

「お稻荷さん」につきものの動物といえば「狐」を、「天満宮」といえば天神

様と一緒に描かれる「牛」を思い浮かべることが多いのではないのでしょうか?これらの動物は一体どのような役割を担っているのでしょうか?

それらの動物の多くは神使(神の使い)やご眷属(親族・身内のな存在)として、神仏への願いを取り次ぐ存在として信じられてきました。

岩手県内においても様々な神使を見ることができます。ここでは、県内を中心に動物にまつわる信仰やバラエティに富んだ神使としての動物をご紹介します。



撫で牛(盛岡市 千手院蔵)

その中の一つ、地域に伝わる物語や風習に関わり信仰の対象となった動物として、盛岡市千手院所蔵の「撫で牛」をご紹介します。

かつて「南部牛」は鉄や塩などを運搬し、沿岸と内陸を結ぶ重要な役割を担っていました。千手院の「撫で牛」は、塩を運び、牛方に追われて息絶え絶えに千手院にたどり着いた背赤の牛と牛方清右工門の物語に基づき寄進されたものです。現在でも広く交通安全や子の健やかな成長の願いを叶えてくれるご利益があると詣でる人が後を絶ちません。

「撫で牛信仰」は江戸時代に普及した信仰で、これを示す錦絵「十二支の丑」(歌川豊国三代/江戸時代/奥州市牛の博物館蔵)なども併せて展示します。



## ■事業報告

# ゴールデンウィークスペシャルイベント

開催日 平成30年5月4日(金)～5月6日(日)

5月4日(金)から6日(日)まで、「ゴールデンウィークスペシャルイベント」と題して2つのイベントが開催されました。

5月4日(金)・5日(土)の2日間にわたって行われた「走れ! 蒸気機関車&新幹線」は、岩手県内の鉄道模型愛好者団体である、岩手鉄道模型仲間会の御協力を得て開催された、鉄道模型のイベントです。モジュールと呼ばれる、箱型のテーブルの上に、線路や建物が置かれ、四季折々の美しい風景や町並みが見事に再現されています。当日は、来館者が所有している車両を走らせることも出来たため、多くの家族や愛好者でにぎわいました。中には、既に引退してしまった列車の模型が走ったほか、鉄道模型の車両内に小型のカメラを積み、車窓の景

色がモニターに映し出されるコーナーが設置されるなど、子どもから大人まで夢中になって、鉄道模型が走る様子を見つけていました。



図1. 鉄道模型モジュール

また、「はやぶさ」など、列車に名づけられた鳥類のパネルで展示し、学芸員

の視点で紹介するコーナーも設けられました。

「ミニSLに乗って出発進行!」は、5月5日(土)と6日(日)の2日間行われました。IGRいわて銀河鉄道株式会社の御協力により芝生広場に本物そっくりのミニSLが運行されました。汽笛を鳴らすミニSLに、乗車した子どもたちは大興奮で、大盛況でした。

(専門学芸調査員 原田祐参)



図2. 芝生広場でミニSL運行中

## ■活動レポート

# 古文書入門講座

平成30年6月2日(土)～17日(日)の週末、全6回

当館では毎年春に「古文書入門講座」を開講しています。今年度は6月の週末、全6回の講座を実施し、9名の方にご参加いただきました。

さて、この講座はその名の通り、初心者を対象とし、一般の方が普段手にすることのない古文書に触れる契機を提供すること、かなや数字など基本的な語句のくずし字を学び、基礎的な読解力を身につけることを目的とした講座です。講師は当館の歴史部門の学芸員が務めており、毎年工夫を重ねながら今日に至っています。

テキストには、江戸時代の書物である『平泉往来』、寺子屋で教科書として使われていた『子供早学問』、『書館定』などを用いました。これらの中には「変体仮名」

と呼ばれる仮名文字が多用されており、まずはその習得が読解の第一歩となります。また同じ漢字でもくずし方、くずされ方は決して一様ではなく、解読や解釈にあたり障壁となる場合も少なくありません。講座の中では、そうした文字や語句、文章を、一行ずつ丁寧に読み進めていきました。受講者の方々にとって、最初は独力で解読することが難しい文字もたくさんあったはずですが、しかし、講座の回を重ねるごとに、過去に見たことがある文字が時には形を変えて繰り返し登場していることに気付き、自力で読める箇所が少しずつ増えていった、そうした実感を持たれた方が多かったようです。受講者のアンケート結果においても、満足度の高さを見て取ることができました。

このことは講師を務めた学芸員として非常に光栄であり、嬉しいことでありました。

当館歴史部門は、今後とも、古文書や歴史学に関心を持つ初心者の方に学びの場を提供し、学問の世界の裾野を広げられるべく尽力してまいりたいと考えております。

(専門学芸員 佐々木康裕)



使用テキスト「平泉往来」

## ■事業報告

## 県博バックヤードツアー

平成30年度「国際博物館の日」関連事業

平成30年度「国際博物館の日」の関連事業として、岩手県立博物館では5月20日（日）に「県博バックヤードツアー」を開催しました。

「国際博物館の日（5月18日）」は、1977年にICOM（International Council of Museums；国際博物館会議）によって制定された記念日で、博物館が社会に果たす役割を広く普及・啓発することを目的としています。当館を含め、この活動に賛同する世界中の博物館では、毎年5月18日を中心に、無料開館や特別講演会、地域連携事業の実施といった様々な記念行事が行われております。

当館では国際博物館の日記念事業の一環として、5月18日を無料開館としたほか、前述のとおり「県博バックヤードツアー」を開催しました。博物館や美術館などのバックヤードは、収蔵している資料保護の観点から厳密な温湿度管理や防犯態勢が必要となるため、通常は職員以外の立ち入りを禁止しております。しかし、博物館の普及啓発を目的とした国際博物館の日に限り、普段は立ち入ることができない当館の収蔵庫等の設備を特別に見学してもらい、表からは見えない博物館の資料収集保存活動の一端を知ってもらうことを目的として当事業を開催しております。このツアーは平成18年度に初めて実施され、今年で13回めの実施となりました。



図1. 文化財レスキューコースの様子

今年度のバックヤードツアーでは、「文化財レスキューコース」と「歴史コース」の2つのコースを実施しました。それぞれ事前に御予約いただいた参加者の皆様に、希望するコースを当館の学芸員と一緒に周っていただきました。

まず午前には「文化財レスキューコース」を実施しました。このコースでは、2011年3月11日の東日本大震災で被災した岩手県沿岸の文化財や博物館資料がどのようにして当館に搬入され、どういった経緯を経て安定化処理がなされるのかを見学・実践してもらいました。被災の有無に限らず、外部から持ち込まれた資料は、すでに収蔵されている別の資料に悪影響をもたらさないように「くん蒸」と呼ばれる殺虫・消毒処理を行う必要があります。このコースでは、まずはくん蒸処理がどこでどのようにして行われるかということと、具体的にどういった生物が文化財害虫となるのかといったことを見てもらいました。1匹ずつの体はとても小さいのですが、貴重な文化財にとっては大敵となる虫たちが多く存在することを知っていただきました。その後、修復館に移動し、被災した資料が修復される工程を見ていただきました。津波で被災した資料は海水に浸かってしまったため、まず塩分を抜くための脱塩処理が必要になります。そこで、作業員から具体的な手順の説明を受けた後に、今回ツアーに参加していただいた方々に実際に脱塩処理を行っていただきました（図1）。初めての作業ということもあり、最初はやや緊張した面持ちでしたが、最後には無事に作業をすることができました。人の手による地道な作業を経て、一点一点資料の安定化が行われていることを今回のツアーで初めて知り、驚かれた方もいらっしゃったようです。



図2. 歴史コースの様子

午後に行った「歴史コース」では、考古、民俗、歴史部門の3つの収蔵庫を周りました。考古部門の収蔵庫（第四収蔵庫）では、岩手県内の遺跡から出土した多数の土器や石器標本の見学を行いました。大昔の岩手の人々が実際に使っていた道具を、展示室よりもずっと間近で見ることができました。次に民俗部門の収蔵庫（第三収蔵庫）に移動し、近代の道具類を観察しました。博物館の収蔵資料と言うと、とても昔の道具ばかりというイメージがありますが、民俗資料の中には昭和時代に発売された洗濯機やテレビといったものもあります。参加者の方々は懐かしさを感じ、思わず当時のことを思い出した方もいらっしゃいました。コースの最後となる歴史部門の収蔵庫（第一収蔵庫）では、収蔵されている刀や鐔などを観察しました（図2）。今回は実際に刀を持ち、その重さを体験していただきました。かつて武士が使用していた本物の刀を構えたその姿は、皆さんどこか誇らしげでした。

参加した方々は博物館の「裏」側を体験することで、「表」に出ている展示資料が博物館資料の中のほんの一部であることを実感され、とても驚かされていたようです。岩手県立博物館では、来年度以降もこうした活動を継続して行っていきたいと考えております。

（学芸員 望月貴史）



# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション〈平成30年9月1日～平成30年12月31日〉

### お知らせ

#### ●資料整理に伴う休館

平成30年9月1日(土)～平成30年9月10日(月)は資料整理のため休館します。

#### ●敬老の日 65歳以上入館無料

平成30年9月17日(月・敬老の日)は、65歳以上の方は無料で入館できます。

#### ●文化の日 入館無料

平成30年11月3日(土・文化の日)は無料で入館できます。

### 展覧会

#### ●テーマ展「祈りにみる動物たち」

平成30年9月22日(土)～平成30年11月25日(日) 2階・特別展示室

県内の動物にまつわる特徴的な信仰を紹介し、私たちが動物にどのような祈りや願いを託してきたのかをご紹介します。※詳細はP.4～5展覧会案内記事をご覧ください。

#### ◆展示解説会 特別展示室 要入館料 各回とも14:30～15:30

①9月30日(日) ②10月20日(土) ③11月10日(土)

#### ◆文化講演会 講堂 無料 11月3日(土)13:30～15:00

「馬と人の恋～遠野物語とオシラ神～」

講師：前川さおり氏(遠野文化研究センター)

#### ◆日曜講座 講堂 無料 各回とも13:30～15:00

10月14日・28日 \*県博日曜講座の欄をご覧ください

#### ●新コレクション展

平成30年12月15日(土)～平成31年2月24日(日)

平成25年度から平成29年度に、新たに収蔵／登録した資料を中心に展示します。 ※詳細は当館ホームページにてご案内します。

### 県博日曜講座

#### 第2・第4日曜日13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

#### \*展覧会関連講座

9月23日「早池峰山の植物をニホンジカから守れるか」(終了16:00)  
高橋裕史氏(森林総研東北支所)

鈴木まほろ(当館学芸員)

\*10月14日「動物をめぐる俗信と伝承～狐はなぜ化ける～」

近藤良子(当館学芸員)

\*10月28日「動物神霊と信仰～江刺地方を中心に～」

野坂晃平氏(えさし郷土文化館学芸員)

11月11日「東北からみた明治～明治維新150年～」 武田麻紀子(当館学芸員)

11月25日「鳥獣と自然環境を語る」 藤井忠志(当館学芸員)

12月9日「(陸前高田修復関連)」 熊谷賢氏(陸前高田市博物館)

赤沼英男(当館学芸員)

12月23日「洪水について考える～水害・ダム・地層～」

山岸千人(当館学芸員)

### 観察会・見学会(事前申込制)

#### ●第76回自然観察会「早池峰山河原坊の植物観察」

平成30年9月30日(日)9:00～17:00 於、早池峰山・河原の坊

早池峰山の河原坊周辺の植物を観察し、ニホンジカによる食害の影響について学びます。

講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

定員：20名程度(小学生以上) ※要事前申し込み

参加費：3000円程度(傷害保険料・交通費)

募集期間：8月23日(木)～9月23日(日)(先着順)

#### ●第76回地質観察会「雫石町の海と湖の地層を見る」

平成30年10月14日(日)10:00～15:30 於、雫石町 現地集合・解散

雫石町がかつて海や湖であった様子を、地層や化石を通して観察します。

講師：望月貴史(当館学芸員)

定員：20名程度(小学校高学年以上、要保護者承諾、)

参加費：100円(障害保険料) ※要事前申し込み

募集期間：9月12日(水)～9月21日(金)

観察会の申し込み方法：往復ハガキまたは専用電子メールで受け付けます。詳細はお問い合わせ下さい

### 博物館まつり

第10回岩手県立博物館まつり 平成30年10月7日(日)9:00(開門)～16:00

体験コーナー-整理券配布 午前の部9:10～ 午後の部12:45～

各体験コーナーは9:30開始

いろいろな体験コーナーが皆さんをお待ちしています!

※展覧会関連：民俗芸能「南部牛追い唄・狐剣舞」

動物ふれあいコーナーもあるよ(雨天中止)

### ■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング

平成30年10月21日(日)9:30～15:00 芝生広場 無料

岩手県内外の貴重な車が一堂に会します。

### 週末の催し

#### ◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします。

毎月第1土曜日13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

10月6日「くちづけ」(映画/123分/一般)

堤幸彦監督。實地谷しほり主演。心は7歳児のままのマコは元漫画家の父に連れられてきた自立支援グループホームひまわり荘で居場所を見つけてますが...

11月3日 ①「ここから歩き始める」 ②「盲目の名馬タカラコスモス」

(①実写ドラマ ②ドキュメンタリー/計81分/中学生～一般)

①認知症の親を持つ主人公とその家族との介護をめぐる葛藤と絆の紡ぎ直しを描きます。

②女子高生と盲目の名馬との心の交流を描いた感動のドキュメンタリーです。

12月1日 クリスマスアニメ特集「フランダースの犬」

(アニメ/103分/小学生～一般向け)

画家を夢見る少年ネロと愛犬パトラッシュにクリスマスの夜、奇跡が!

#### ◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

9月15日・16日・17日・22日・23日・24日 テーマ：秋

10月13日・14日・20日・21日 テーマ：動物

11月10日・11日・17日・18日 テーマ：高い

12月8日・9日・15日・16日 テーマ：新

#### ◆たいげん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30 幼児(保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料(材料費代/プログラムごとに異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

9月	2日 (お休み)	11月	4日 化石のレプリカ
	9日 (お休み)		11日 手づくり万華鏡
	16日 お月見かざり		18日 こはくの玉づくり
10月	23日 手づくり万華鏡	12月	25日 松ぼっくりのXmasツリー
	30日 アンモナイトの消しゴムづくり		2日 松ぼっくりのXmasツリー
	7日 (はくぶつかんまつり)		9日 まゆで干支づくり(亥)
	14日 ウォータードームづくり		16日 松ぼっくりの正月かざり
10月	21日 葉っぱのカラフルカード	12月	23日 まゆで干支づくり(亥)
	28日 スライムであそぼう		30日 (お休み)

### ■ミュージアムコンサート

12月24日(月・祝) 13:30～14:30 講堂 当日受付 鑑賞無料

親子で楽しめるクリスマスコンサート!

### ■定時解説

平日～土曜日 13:30～14:30/日曜日 10:30～11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

### ■平成30年度の利用案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は開館、翌平日休館)

※9月17日(月・敬老の日)、9月24日(月・振替休日)、

10月8日(月・振替休日)、12月24日(月・振替休日)は臨時開館、

資料整理日(9月1日～9月10日)

年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

( )内は20名以上の団体割引料金

※9月17日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

※11月3日(土・文化の日)は入館無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第158号 平成30年9月1日発行	編集 岩手県立博物館
	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
	Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214
	発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団
	〒020-0023 盛岡市内丸13-1
	Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595